トピックス

やくり，播磨灘でイノシシに遭遇す

県水産試験場の水産調査船「やくり」は，香川県海域の海洋観測や赤潮調査を主体に，年間約 100 日，距離にして年間 15,000 km あまりを航行しています。航行に際しては，船舶交通の安全確保や海況の確認のため，必ず複数の者が周囲を監視しています。そのため，珍しいものに出会う（珍しいものを見付ける）ともしばしばあります。

2013 年 8 月 8 日，瀬戸内海東部の播磨灘で赤潮調査をしていたときのこと（図 1）。小豆島南東部の調査定点 KA4 での観測を終え，次の定点 K3 へ向かう途中の午前 9 時 15 分のことでした。左舷前方の海面に何か浮いているものが目に入ります。近づいてみると，何とイノシシの成獣 1 頭の死骸。腐敗している様子はなく，死んで間もないもののようでした。

さらに小豆島東部沿岸を北上し，次の定点，東かがわ市沖の K4 に向けて南下している午前 10 時 13 分のことでした。今度はイノシシの小型の成獣 1 頭が海面を遊泳（漂流？）しているのを発見しました（写真 1）。先程の成獣を発見した場所から 5 km ほど東の場所です。発見した時間と場所から推測すると，2 頭のイノシシは，同じ状況下で海に飛び込んだのかもしれません。

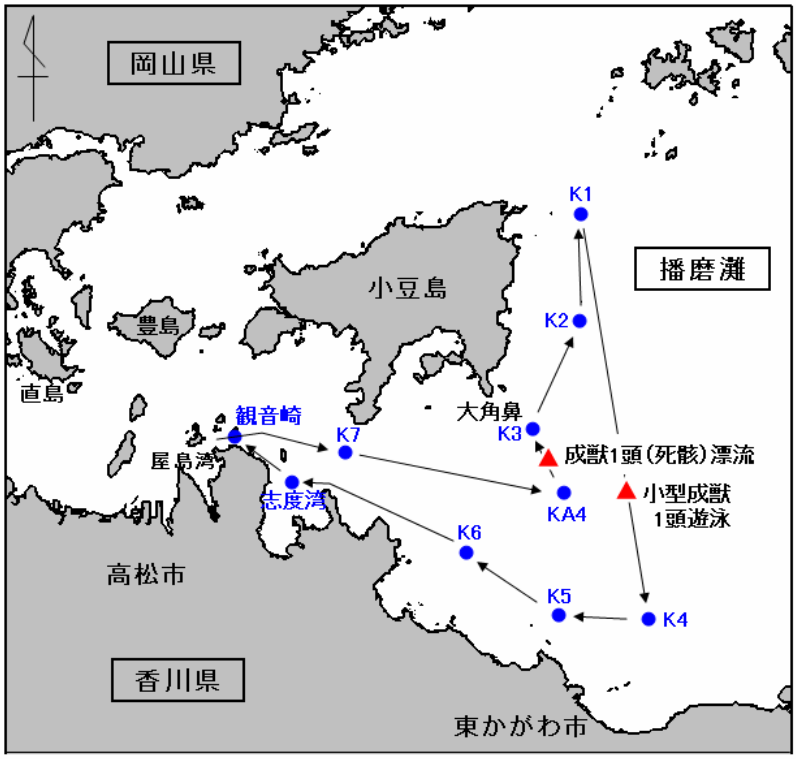

図1　2013 年 8 月 8 日の赤潮調査における航行ルートとイノシシの発見地点　▲：イノシシ発見地点，　●：調査定点

今回の件について，野生生物に詳しい県みどり保全課の高尾課長補佐にお伺いしたところ，「屋島湾，志度湾，小豆島・直島・豊島沿岸など，海を泳ぐイノシシは結構目撃されている。恐らく日常的に遊泳していると思う。ただ，今回のように海の真ん中で泳いでいるのは珍しい。」とのことでした。

写真1　遊泳するイノシシ
2013 年 8 月 8 日 10 時 13 分，小豆島大角鼻灯台から真方位 126 度 12,700 m 海上。

減反や耕作放棄地の増加，山村人口の減少により，1970 年代頃からイノシシの生息数が増加し，西日本を中心に分布域も拡大しています。インターネットで検索すると，2010 年頃から瀬戸内海や九州の各地で，海を泳ぐイノシシの目撃情報が多数寄せられています。「やくり」の 2003 年以降の航行記録を調べると，イノシシと出会ったのは，2010 年の小豆島海上保安署からの情報を除くと今回が初めてとなりますが，やはり野生のイノシシとは，海の上ではなく人里離れた山中でお見かけしたいものです。

ちなみにイノシシは，鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（略称：鳥獣保護法）により，基本的に捕獲は禁止されているので，発見してもそのままにしておくのが正解です。

【参考資料】

（独）農業・食品産業技術研究機構　近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム，イノシシの生態解明と農作物被害防止技術の開発，農林水産高度化事業（平成 15～18 年度）
http://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/chougai/ino-HP/ino-top.htm

（文責　大山憲一，2013/8/16 記）